

◆科目別出題概要

※全科目オールマークシート方式。

国 語

〔傾 向〕

○出題形式

現代文の大問（読解問題）1題と一問一答式の問題（事項別、4題）とで構成されている。全問マークシート方式であり、配点の割合は大問が6割、一問一答式が4割となっている。

○出題内容

大問は現代文のみの出題となり、評論、論説的文章からの出題が主となっている。設問の内容は漢字の読みや熟語の意味、空所補充、内容説明、箇所指摘など。内容説明は論旨を問うものが中心であるが比較的平易な質問が多い。最終設問は論旨に合うか合わないかを問う形となっている。箇所指摘問題は脱落文の補充箇所を探す問題などである。

一問一答方式で扱われる事項は、慣用表現、熟語の構成、敬意表現、四字・三字熟語等であり、国語に関する基礎的基本的な知識を問う問題となっている。

〔対 策〕

大問の文章（評論・論説など）には学部の専門分野に関連する内容のものが多く出題されています。自分が進もうとする分野および他学科の専門領域に関連した書物やニュース報道等に関心を持って、新聞やネット上の記事などに普段から接しておきましょう。また、一問一答式の問題では日本語の語彙力や言語的な知識が問われますので、熟語や慣用表現、漢字の成り立ちなどを中心に基礎的基本的な学習を十分に積んでおくといいいでしょう。

化学基礎

〔傾 向〕

○出題形式

公募推薦・一般入試ともに全問マークシート方式となっている。平成28年度まで記述式問題となっていた化学用語や物質名、化学式、化学（イオン）反応式、計算問題などの設問も全てマーク方式に変更され、化学基礎分野の出題数は、公募推薦入試では全25題、一般入試では全13題となっている。

○出題内容

出題範囲は推薦入試も一般入試も化学基礎の範囲だけから出題されている。物質の分類や周期性、化学結合に関する内容や、酸・塩基、酸化還元に関する内容といった化学基礎全範囲から基礎的内容が出題されている。上記の通り、以前は記述問題として出題されてきた酸・塩基や酸化還元に関する化学反応式やイオン反応式や物質質量に関する計算、化学反応式の量的関係、pHの算出、酸・塩基滴定、酸化還元滴定における量的関係に関する問題などもマーク式問題に変更されている。各分野とも基礎的な問題が多く、教科書の内容を逸脱したものは見受けられない。

〔対 策〕

問題そのものは基礎的なものが大部分を占める。よって、化学基礎の教科書の内容をしっかりと理解しておくことが重要になってくる。出題分野に大きな偏りはなく全範囲を広く出題されているので、網羅的に勉強しておく必要がある。特に、出題される化合物は、教科書に準拠した代表的な物質に限られている。教科書に出てくる主要な化合物、化学式や化学反応式は必ず書けるようにしておきたい。また、代表的な実験や考察はその結果まで理解するように努めてほしい。計算問題の対策としては、教科書に準拠する問題集の基本的な問題で十分なので、自分で計算式を示せるようになるまで繰り返し練習し、計算の正確性、指定された有効数字に合わせるなど、日々の演習の際に常に意識して学習してほしい。

生物基礎

〔傾 向〕

○出題形式

推薦入試は生物基礎のみの大問4～5題、一般入試は化学基礎・生物基礎及び生物基礎・生物として各大問2～3題の構成で、全問マークシート方式である。問題数は推薦では30題、一般では生物基礎部分で15題となっている。

○出題内容

出題範囲は、推薦入試も一般入試も生物基礎の範囲だけから出題されている。生物の多様性、エネルギーと代謝、光合成、呼吸、遺伝子とその働き、体内環境、免疫、植生とバイオーム、物質循環とエネルギーの流れといった生物基礎全範囲から出題されており、大問は概ね一つの分野で構成されている。説明文の空所補充問題は平易かつ基本的な内容を問うものが多く、説明内容の意図、文章の流れをつかめば特に難しいものではない。また、図やグラフに関連した出題も教科書で見かけるものが中心に出題されている。各分野とも基礎的な問題が多く、教科書の内容を逸脱したものは見られない。なお、一般入試については生物基礎・生物の両科目に内容が重複する分野については、「生物」の範囲で扱われることが多く、より詳細な知識が問われる傾向にある。全体として、生物基礎を中心に学習を進めていた者にはやや難しく感じられると思われる。

〔対 策〕

問題内容は教科書に準拠する基礎的なものばかりである。よって、生物基礎の教科書の内容を十分に理解することが重要である。学部特性から生物の体内環境の維持は重要な分野であるが、入試日程を通してほぼ全範囲に渡って出題されており、一つの日程でどの分野が出題されるかわからないので、全範囲を偏ることなく学習しておく必要がある。また、大問の中で複数分野に関連する事項については、小問として扱われることも予想される。何れの問題も出題範囲内の理解で解けるものであるが、初見と思える問題も落ち着いて取り組む姿勢が求められる。教科書に記載されている「発展」「考察」「コラム」などにも目を通し、代表的な実験やグラフ・図も理解しておきたい。なお、受験対策の基本は教科書を中心とした学習に他ならないが、出題の多様性、すなわち出題の意図やポイントをつかむことに慣れておくことも重要であるので基礎的な問題集にあたるなどして学習を進めてほしい。

化学（「化学基礎及び化学」の内の化学）

〔傾 向〕

○出題形式

大問題は「化学基礎」（「化学基礎及び生物基礎」共通）の問題を除いて、大問題3問とし、マークシート方式である。解答数は17～26とした。

○出題内容

「化学」の全分野から標準的な問題が出題されている。一般入試A日程では、化学反応式に関する問題、無機物質に関する問題、有機化合物の性質、用途に関する問題が出題されている。一般入試B日程では、元素の周期表に関する問題、物質量に関する問題、化学反応式に関する問題で、一般入試C日程では、酸と塩基の中和に関する問題、無機物質に関する問題、糖の構造に関する問題が出題されている。

〔対 策〕

教科書の基本的な内容をしっかり理解して、化学式、示性式なども正確に書けるくらいにしておく。また、応用的な問題は、落ち着いて設問をよく読むように心がけること。

生物（「生物基礎及び生物」の内の生物）

〔傾 向〕

○出題形式

大問題6問程度で、マークシート方式である。選択問題は選択肢を多くし、5個以上の選択肢から、1つまたは2つを選ぶようになっている。問題は適切な用語を選ぶ問題、正しい文を選ぶ問題、計算問題、実験内容・結果から考察する問題など様々な形式で出題されている。

○出題内容

2018年度の入試では、出題内容は「生物」の中から、全ての分野について出題されている。計算が必要な問題の出題もあるが、基本的なものである。

〔対 策〕

教科書に記載されている基礎事項を体系的に理解していることが大切である。また教科書の本文だけを理解するのではなく、実験の図表や計算方法も理解しておくことが必要である。

英 語

〔傾 向〕

○出題形式

大問題は5題あり、全問マークシート方式で、すべてに選択肢がある。読解問題は2題で、物語的長文（内容一致）とメディアからの長文（空所補充、内容一致）がある。さらに文法・語彙問題と会話表現に基づいた問題が出題されている。

○出題内容

長文1は物語を読み、正確に内容を理解できているかが問われている。長文2は本学の設置学科の特色を反映し、栄養、食品、健康、科学、子どもの抱える諸問題などをテーマとし、空所補充（主に前置詞や接続詞）と内容一致の小問題で構成されている。文法やイディオムの知識を問う問題は、短文の空所補充と語彙の並べ替えという形式で出題されている。大問題5は、日常生活における様々な場面での基本的な対話による表現が文単位の空所補充で解答するようになっている。

〔対 策〕

基本的な語彙力と文法の知識が問われる。長文読解への対策として、自分が進もうとする分野に関連した書物やニュース記事に関心を持って普段から接してほしい。

数 学

〔傾 向〕

○出題形式

全問マークシート方式で、4つの選択肢から1つを選択し、解答する。

17～20題程度の問題から構成される。小問2～4問を含む大問を1～3題程度含むことがある。解答個数は17～24個程度である。

○出題内容

「数学Ⅰ・数学A」の全範囲を出題範囲とする。

基礎事項の理解の度合、処理の的確さ、計算力、論理的思考力などの総合的な基礎力を判定するため、基本的問題を広範囲に出題されている。

〔対 策〕

用語や定義などを含め、基本的な事項をしっかりと整理しておく。教科書の例題・練習問題の内容をしっかりとマスターすること。

基本的な問題を出題するが、時間内に解答するためには、的確な見通し・段取りと正確で素早い計算力が必要である。日常の学習において最後まで計算し、正確に答えを求められたか、時間の配分は的確かなどを確認しておく。